

## 第210回 信用保証利用企業動向調査

(2021年7～9月期実績、2021年10～12月期見通し)

福岡県信用保証協会（本所：福岡市博多区 会長：山崎建典）は、株式会社日本政策金融公庫（本店：東京都千代田区 代表取締役総裁：田中一穂）と共同で、福岡県信用保証協会をご利用いただいている中小企業に対し、景況・金融動向を把握するため、四半期毎にアンケートを実施のうえ発表しています。

なお、次回の発表は2022年2月を予定しています。



### — 今回の調査 —

【調査時点】	2021年9月中旬
【調査対象】	1,869企業
【有効回答数】	608企業（回答率32.5%）
【調査方法】	封書によるアンケート調査



## ～ 福岡県内の景況・金融動向 ～

**「県内信用保証利用企業の景況は、一部業種に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いています」**

### 生産・売上

製造業を除く全ての業種で悪化し、特に建設業で大幅に悪化しました。

### 採算

製造業を除く全ての業種で悪化し、特に卸売業、小売業、建設業で大幅に悪化しました。

### 資金繰り

製造業を除く全ての業種で大幅に悪化しました。

### 借入難易感

製造業を除く全ての業種で悪化しました。

### ■ お問い合わせ先

保証統括部 保証企画課 廣瀬・小田 電話092(415)2609

URL : <https://www.fukuoka-cgc.or.jp/> Mail : [h-suisin@fukuoka-cgc.or.jp](mailto:h-suisin@fukuoka-cgc.or.jp)



## 概況

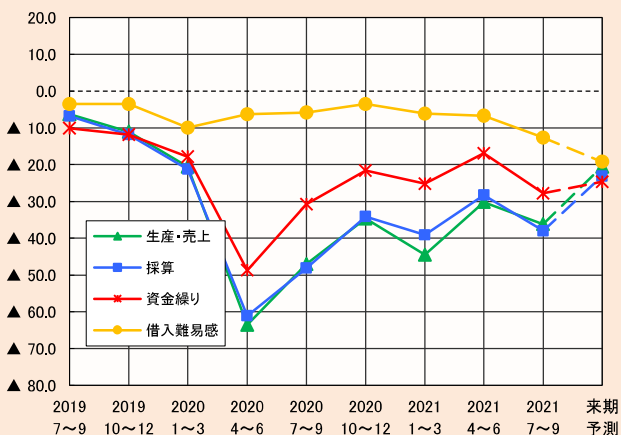
### 総合DIの推移

**コメント** ～全国と同様、福岡の景況も一部業種に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている～

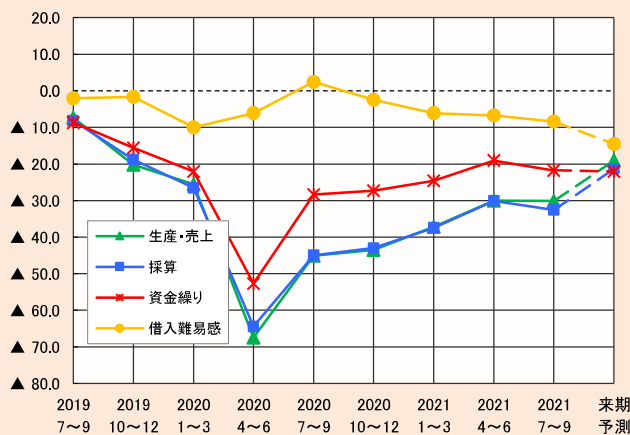
今期調査(2021年7～9月期)による景況動向指数は、前期(2021年4～6月期)実績に比べ、全国値では、生産・売上DIは横ばい、採算DI、資金繰りDI、借入難易感DIはマイナス幅がやや拡大しました。

福岡では、生産・売上DI、採算DI、借入難易感DIはマイナス幅が拡大、資金繰りDIはマイナス幅が大幅に拡大しました。来期予測では、全国、福岡ともに、借入難易感DIが悪化する見込みとなっています。

#### 福岡



#### 全国



#### ※景気動向指数DI(Diffusion Index)とは・・・

景気動向指数DIとは、景気の現状と先行きを予測する動向指数で、アンケート調査において、前期に比べ、「増加(または、好転、容易)」と回答した企業割合から、「減少(または、悪化、困難)」と回答した企業割合を差し引いた数値から、季節的な変動要因(季節調整値)を控除した数値です。

## TOPICS

### ◆『令和3年8月11日からの大雨による災害』により被災された中小企業者への支援について◆

このたびの大雨により被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復旧されますよう、心よりお祈り申し上げます。

被災された中小企業者の方への金融支援として、既存の福岡県緊急経済対策資金と別枠でご利用いただける『緊急特別融資枠』が創設されましたので、ご利用ください。

福岡県緊急経済対策資金『緊急特別融資枠』	
対象者	令和3年8月11日からの大雨で被災された県内中小企業者
融資限度額	3,000万円(既存の緊急経済対策資金とは別枠)
対象資金	災害復旧に要する設備資金・運転資金
融資期間	10年以内(据置2年以内)
金利	年0.90%
保証料率	年0.00%(福岡県全額負担)
担保	必要に応じて
保証人	原則として法人代表者以外は不要
必要書類等	通常の申込書類に加えて、市町村等が発行する「罹災証明書」または「被災証明書」(写)
受付期間	令和3年9月2日～令和4年3月31日(保証協会申込受付分まで)



福岡県信用保証協会

本所保証統括部



0120-112-249

## 生産・売上DI

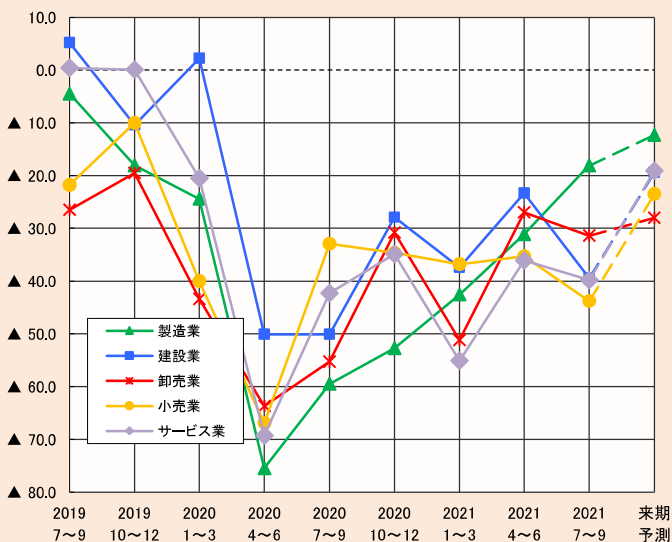
**コメント** ～製造業を除く全ての業種で悪化し、特に建設業で大幅に悪化～

生産・売上DIについて、福岡総合値では、前期実績に比べ6.0ポイント悪化し、▲36.2となりました。

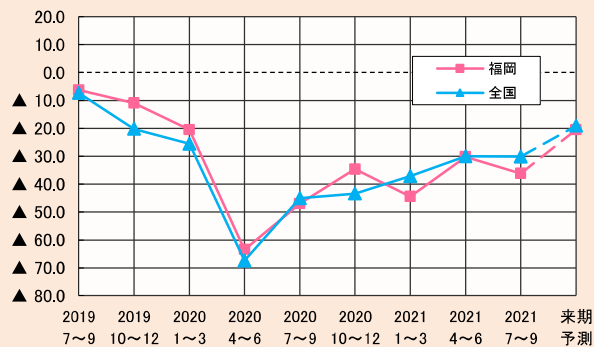
業種別では、前期実績に比べ、製造業は13.0ポイント大幅に改善しました。一方で建設業は16.1ポイント大幅に悪化し、小売業は8.5ポイント、卸売業は4.4ポイント、サービス業は3.7ポイント悪化しました。

来期予測では、全ての業種で改善する見込みとなっています。

### 福岡県の実績・売上DI推移(業種別)



### 全国と福岡県の実績・売上DIの総合



福岡	前期予測	今期実績	来期予測
総合	▲13.1	▲36.2	▲20.5
製造業	▲6.0	▲18.1	▲12.3
建設業	▲13.2	▲39.4	▲19.4
卸売業	▲10.1	▲31.4	▲28.0
小売業	▲20.8	▲43.8	▲23.5
サービス業	▲13.8	▲39.8	▲19.1

## 採算DI

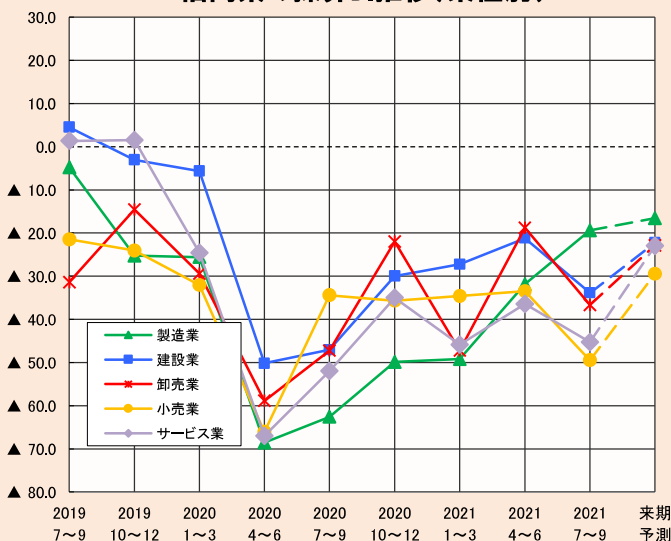
**コメント** ～製造業を除く全ての業種で悪化し、特に卸売業、小売業、建設業で大幅に悪化～

採算DIについて、福岡総合値では、前期実績に比べ9.7ポイント悪化し、▲38.0となりました。

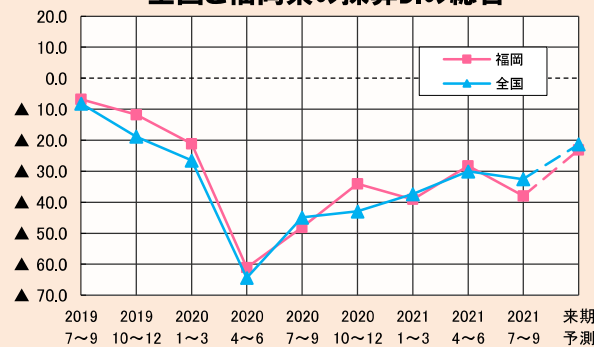
業種別では、前期実績に比べ、製造業は12.5ポイント大幅に改善し、卸売業は17.9ポイント、小売業は16.0ポイント、建設業は12.7ポイント大幅に悪化、サービス業は8.8ポイント悪化しました。

来期予測では、全ての業種で改善する見込みとなっています。

### 福岡県の実績・採算DI推移(業種別)



### 全国と福岡県の実績・採算DIの総合



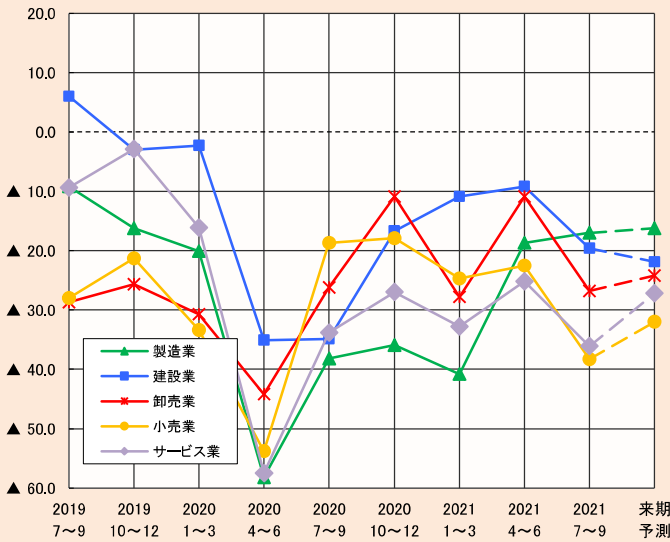
福岡	前期予測	今期実績	来期予測
総合	▲15.4	▲38.0	▲23.1
製造業	▲6.9	▲19.4	▲16.6
建設業	▲16.8	▲33.9	▲22.3
卸売業	▲9.5	▲36.7	▲22.9
小売業	▲23.2	▲49.5	▲29.5
サービス業	▲16.8	▲45.3	▲23.0

## 資金繰りDI

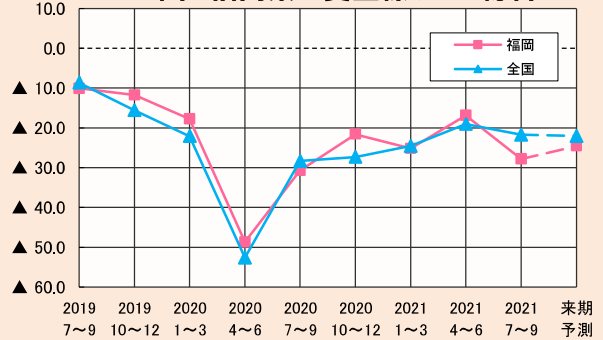
**コメント** ～製造業を除く全ての業種で大幅に悪化～

資金繰りDIについて、福岡総合値では、前期実績に比べ10.9ポイント悪化し、▲27.8となりました。  
業種別では、前期実績に比べ、製造業は1.7ポイントとやや改善し、卸売業は15.9ポイント、小売業は15.8ポイント、サービス業は10.9ポイント、建設業は10.4ポイント大幅に悪化しました。  
来期予測では、建設業を除く全ての業種で改善する見込みとなっています。

### 福岡県の資金繰りDI推移(業種別)



### 全国と福岡県の資金繰りDIの総合



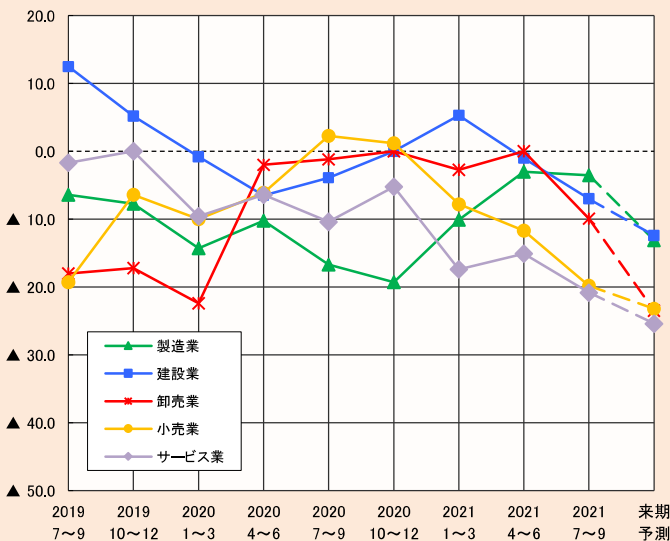
	福岡	前期予測	今期実績	来期予測
総合	▲16.6	▲16.6	▲27.8	▲24.6
製造業	▲14.9	▲14.9	▲17.0	▲16.2
建設業	▲10.1	▲10.1	▲19.6	▲21.9
卸売業	▲15.8	▲15.8	▲26.8	▲24.2
小売業	▲28.7	▲28.7	▲38.3	▲32.0
サービス業	▲18.0	▲18.0	▲36.1	▲27.2

## 借入難易感DI

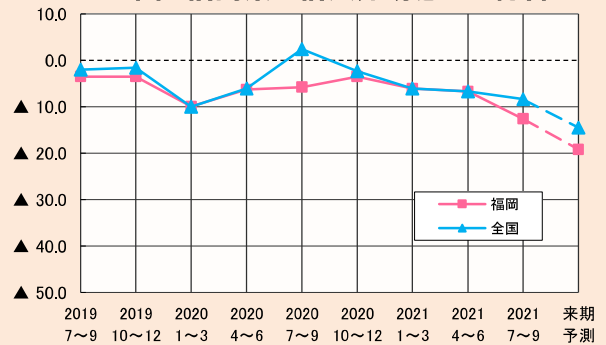
**コメント** ～製造業を除く全ての業種で悪化～

借入難易感DIについて、福岡総合値では、前期実績と比べ5.9ポイント悪化し、▲12.6となりました。  
業種別では、前期実績に比べ、卸売業は9.9ポイント、小売業は8.1ポイント、建設業は6.0ポイント、サービス業は5.7ポイント悪化し、製造業は横ばいとなりました。  
来期予測では、全ての業種で悪化する見込みとなっています。

### 福岡県の借入難易感DI推移(業種別)



### 全国と福岡県の借入難易感DIの総合



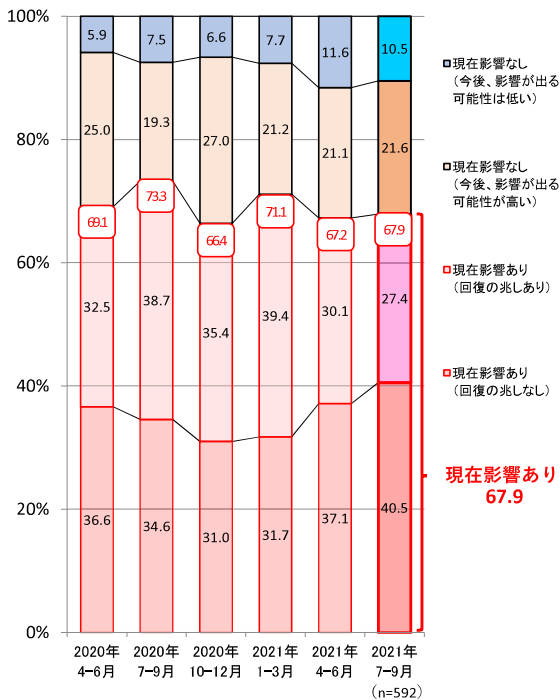
	福岡	前期予測	今期実績	来期予測
総合	▲13.6	▲13.6	▲12.6	▲19.2
製造業	▲8.9	▲8.9	▲3.5	▲13.1
建設業	▲9.4	▲9.4	▲7.0	▲12.4
卸売業	▲11.2	▲11.2	▲9.9	▲23.5
小売業	▲22.4	▲22.4	▲19.8	▲23.2
サービス業	▲16.0	▲16.0	▲20.8	▲25.4

# 新型コロナウイルス感染症の影響及びコロナ禍における信用保証付融資の利用状況等について

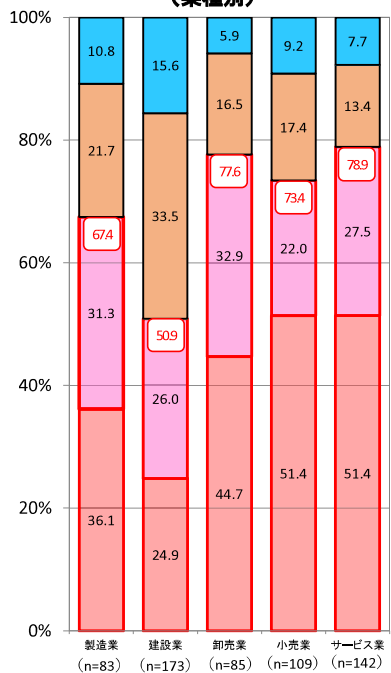
## 1. 新型コロナウイルス感染症の影響について

- ・新型コロナウイルス感染症による企業活動へのマイナスの影響については、「現在影響あり」と回答した企業は67.9%と、20年4～6月期以降7割前後で推移している。
- ・業種別にみると、建設業は「現在影響あり」が50.9%と他業種と比べて低い割合となっている。
- ・従業員規模別にみると、0～2人は「回復の兆しなし」の割合が一番高くなっている。

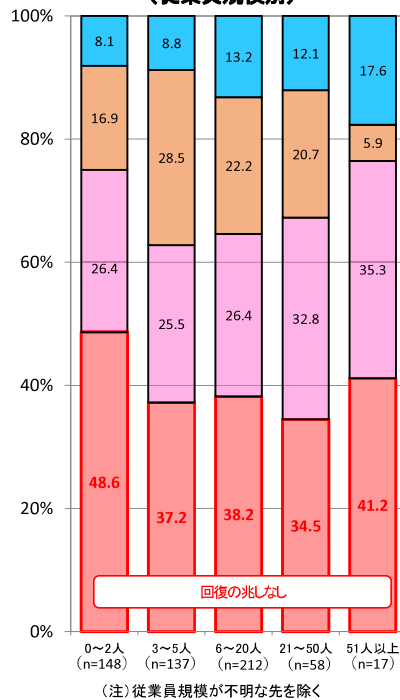
(1) 企業活動へのマイナスの影響



(2) 企業活動へのマイナスの影響 (業種別)



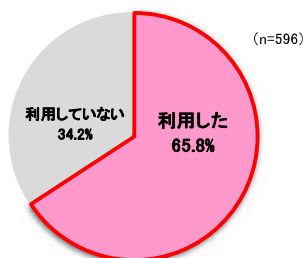
(3) 企業活動へのマイナスの影響 (従業員規模別)



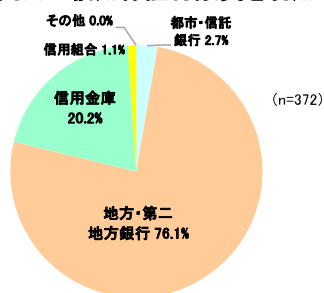
## 2. 信用保証付融資の利用状況について

- ・コロナ禍の20年2月～21年9月に資金繰り対策として、信用保証付融資を「利用した」と回答した企業は65.8%となっている。
- ・利用した金融機関では、「地方・第二地方銀行」の割合が76.1%と最も高い。
- ・利用した企業の事業への効果をみると、「当面の手元余裕資金を確保することができた」の割合が70.9%と最も高い。

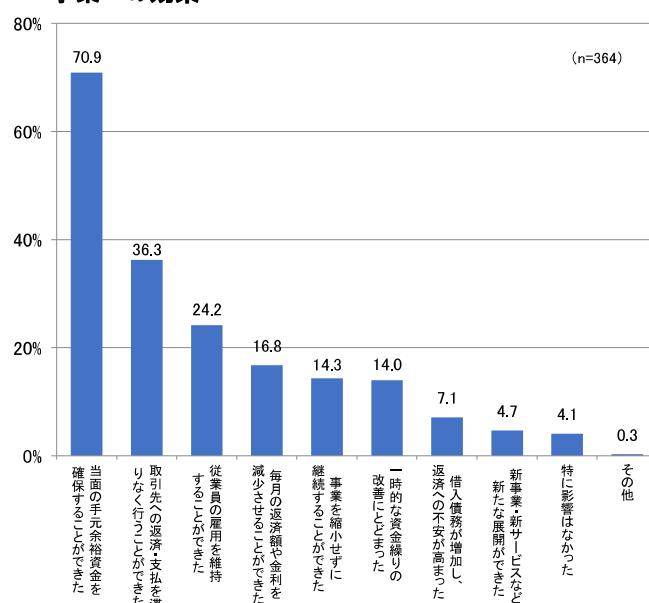
(1) 信用保証付融資の利用状況(2020年2月～2021年9月)



(2) 上記の期間内に信用保証付融資を利用した金融機関



(3) 上記の期間内に信用保証付融資を利用した企業の事業への効果



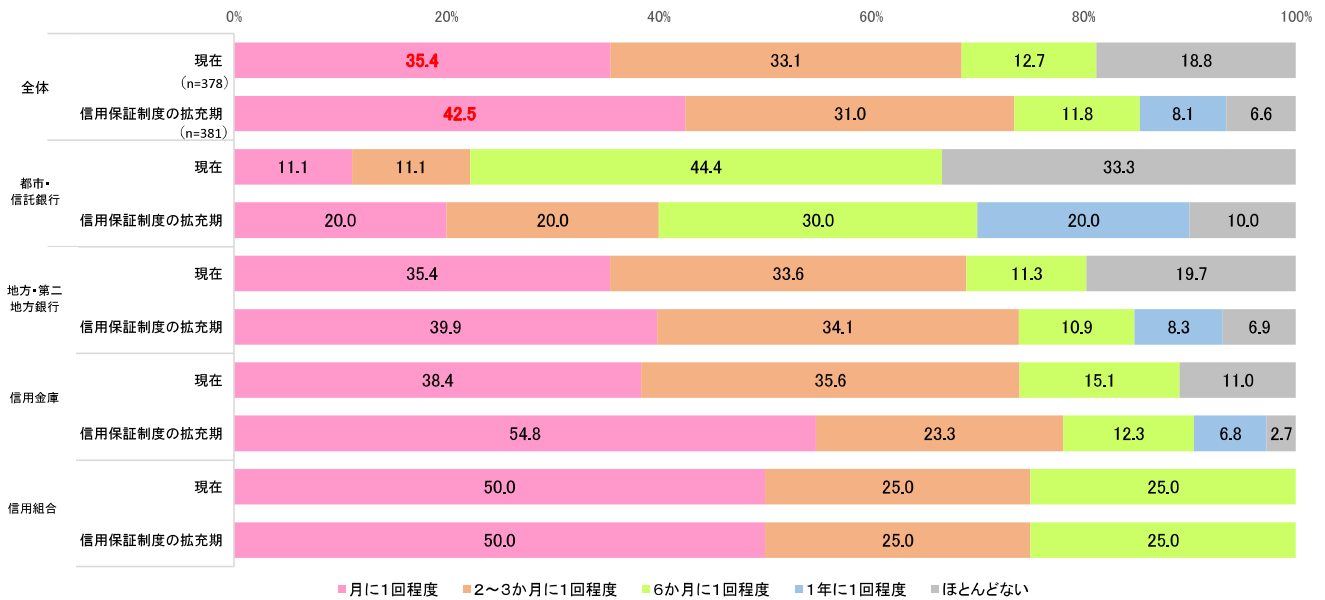
(注1) 複数の金融機関を利用した場合は、最も利用金額が大きい金融機関

(注2) 複数回答のため、合計は100%を超える。

### 3. 金融機関との対話状況について

・対話頻度が「月に1回程度」と回答した企業の割合は、信用保証制度の拡充期の42.5%から、現在は35.4%に低下したものの、最も高い。  
 ・金融機関との対話時の話題については、「財務・経営状況に関すること」が6割と最も高く、次いで「自治体の制度融資(保証付)に関すること」、「各種給付金・助成金の申請等に関すること」の順になっている。

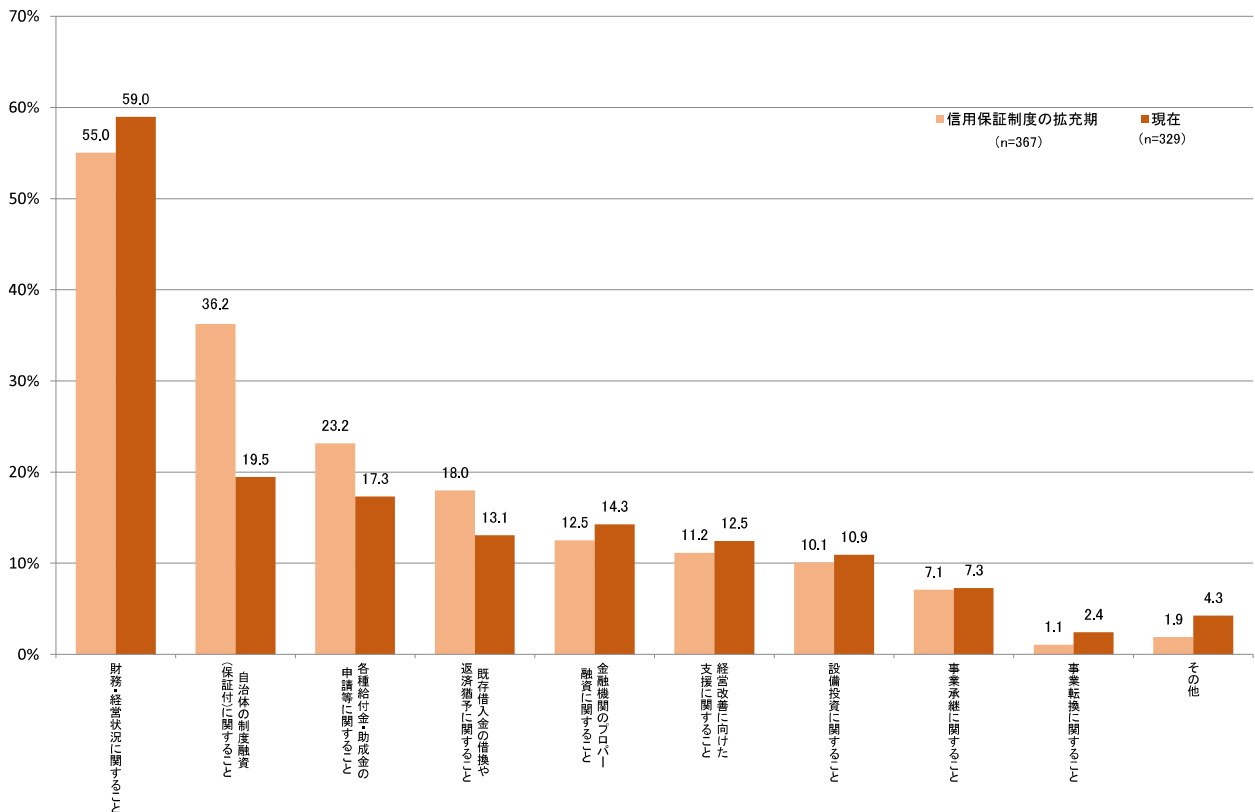
#### (1) 金融機関との対話頻度



(注1) 信用保証制度の拡充期: 2020年2月～2021年3月頃  
 現在: 2021年4月～9月頃

(注2) 対話: 訪問、面談、電話、オンライン等の手段により、金融機関と対話したものをいう  
 (注3) 現在の期間が2021年4月～9月頃のため、「1年に1回程度」は区分けしていない

#### (2) 金融機関との対話時の主な話題



(注1) 信用保証制度の拡充期: 2020年2月～2021年3月頃  
 現在: 2021年4月～9月頃

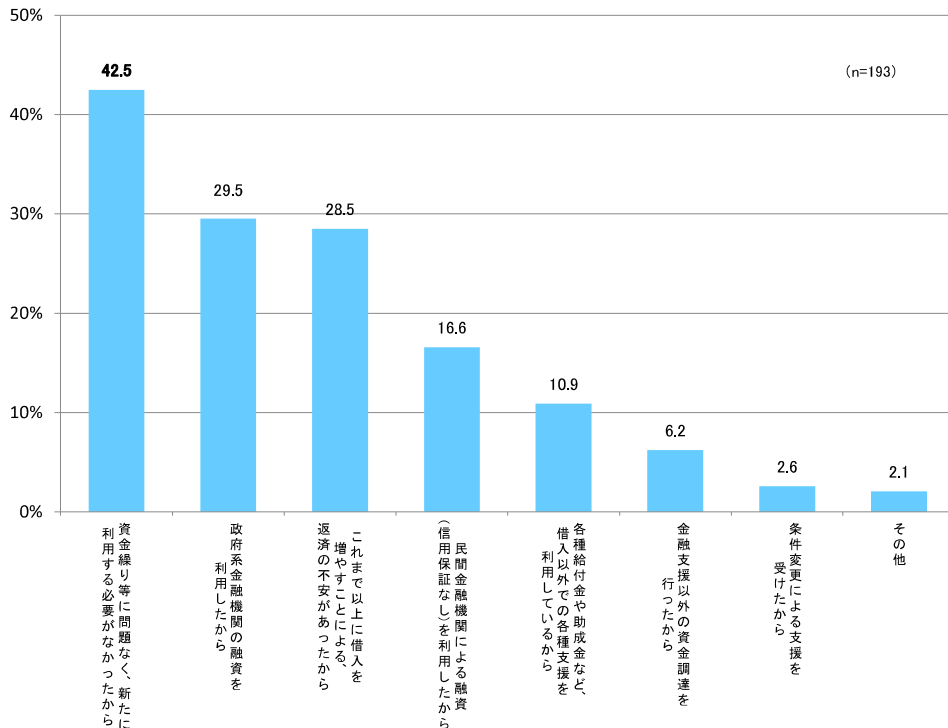
(注2) 複数回答のため、合計は100%を超える。

(注3) プロパー融資: 信用保証付ではない融資

#### 4. 信用保証付融資の未利用の状況について

・コロナ禍の20年2月～21年9月に、信用保証付融資を利用しなかった主な理由は、「資金繰り等に問題なく、新たに利用する必要がなかったから」が約4割と最も高く、次いで「政府系金融機関の融資を利用したから」、「これまで以上に借入を増やすことによる、返済の不安があったから」の順に割合が高くなっている。

信用保証付融資を利用していない主な理由



(注) 複数回答のため、合計は100%を超える。

【再掲】信用保証付融資の利用状況  
(2020年2月～2021年9月)

